

# 平成の財政 再建実例

「これは旧赤池町以来の指定になる」。今年、財政再建団体への移行を決めた北海道夕張市、その報道では決まっ  
てこう伝えられます。いまだ注目を集める平成の再建例、  
およそ32億円の赤字を解消した教訓を振り返ります。

## 平成

成になつて全国唯一の財政再建団体に指定された旧赤池町。一般会計が4億円、町立病院が6億円、工業団地を整備した土地開発公社が22億円、しめて約32億円もの赤字を計上しました。通常、旧赤池町が財政再建団体に指定される赤字ラインは約5億円。その6倍以上の赤字額を抱えて再建に踏み切ったのです。

### 厳しい削減と負担増の断行

まず始めに着手したのは人件費の削減でした。16の課を13にし、組織を統廃合。169人の職員を155人に、24人の臨時職員を10

人に減らしました。昇給の据え置きや時間外手当の削減(7%→3%)も行い、国家公務員を100としたラスパイス指数は98.2から87.4に減少。議員定数も2減の16人とし、町長や特別職の報酬も全国最低レベルになりました。次に事業費を抑制。地方債の発行(借金)を抑え、国や県から助成される補助事業以外は原則禁止し、支出を徹底的に見直ししました。一方、住民負担も増加しました。住宅家賃が約23%、体育施設利用料が5年ごとに約25%、給食費は約15%、水道料金が5年ごとに約12%、汚水処理料金は約2倍の増加。団体への補助金は半額以下に

カット、敬老祝い金は55%減額、保育料の減免措置は廃止され、住民票や印鑑証明の発行手数料も軒並み値上がりしました。自主再建ではどうもいできなかった厳しい削減と値上げを断行したのです。

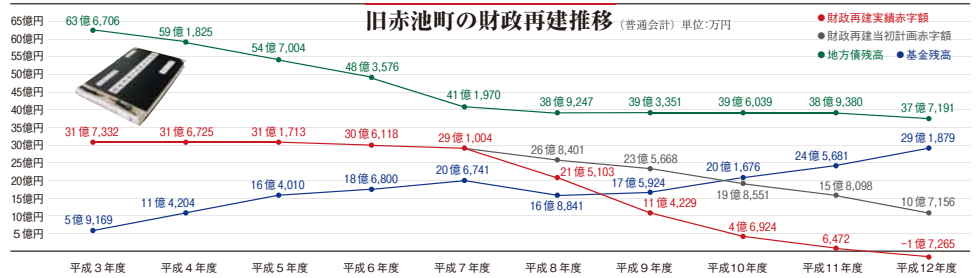
### 絶対的存在の財政再建計画

財政再建団体になると、議会議決と総務大臣の承認を受けた「財

政再建計画」に基づいて予算を編成します。国の管理下で行う再建のポイントは、まさにこの「財政再建計画」にあります。12年間に  
およぶゆるぎない計画で、歳出をガツチリと固めるのです。毎年の予算はこの計画に沿って編成するため、変更する場合は、その都度「計画変更申請」を行い、細目にわたって国・県の同意を得なければなりません。一般的に言

われる「再建団体は鉛筆一本も買えない」との例え話は、このことを大げさに表現したものです。旧赤池町は10年先までの社会情勢を予測した厳しい「財政再建計画」と、国・県の熱意ある指導によつて財政再建団体から脱却しました。計画より2年早い完了の背景には、コスト意識を高めた行政と、理解を示し、危機感を共有した住民との協働があったことはいまでもありません。

福智町には、今もなお財政再建のノウハウを学ぼうと行政や議会の視察、講演依頼が相次いでいます。北海道夕張市の状況を機にマスコミなどの報道の数も増加し、注目を集めています。しかし、過去に得た財政再建の教訓は、新町で直面する財政難を乗り切つてこそ実を結んだと言えるでしょう。



## 再建前夜の夕張市

約600億円の赤字、約6000億円の借金を抱える夕張市。昨年9月に旧赤池町を視察した同市議会の高橋一太議員に話を伺いました。



「視察でおうかがいした際に、財政再建当初の旧赤池町の赤字額と夕張市の現状とを比較し、わたしの中で危機感がいっそう強まったのを覚えています。みなさんご存じのように、夕張市は財政再建団体になることを決め、議会でも財政再建計画について議論していますが、すべての項目において全国最低以下の想像を絶するような内容が提示されています。住民説明会では「しわよせを食らうのは住民だ」と紛糾しました。今後、長く厳しい道のりになりますが、再建明け後の自立した町並みを夢見て、ひたすらやっていくしかありません。このようなことが言える立場ではありませんが、過去に旧3町が貴重な経験をされた福智町のみなさんには、わたしたちに希望を示す上でも、同じ道ではなく、自立への道を歩んでほしいと願っています。」



東京都小金井市から視察に訪れた同市議会の小川和彦議員「官民一体となった財政再建の貴重な体験が聞けた。最も大切なのは意識だと痛感した」



大阪府の四条畷市議会から訪れた扇谷昭議員「うちも自主再建中だが、歳入歳出の見積もりがまだ甘いと感じた。思い切った計画が必要だと確信した」

## 13年越しの末に、やっと日の目を見た市場小学校の建設



外壁や手すりの接続部がはがれ落ち、非常階段の踊り場までもが腐食した市場小の校舎。教室の床も廊下も職員が継ぎはぎして、しのいできた。

「子どもたちに何かあったらどう責任をとるんだ」学校に激しく詰め寄る保護者たち。それもそのはず、市場小の校舎は、老朽化が目立ち、いたるところでコンクリートがはがれ落ちていました。今からおよそ13年前に持ち上がった市場小校舎の改築願。旧赤池町における財政再建期間中のことでした。町教育委員会は急いで資料をそろえ財政再建計画の変更申請書を作成します。町が、国・県との変更申請の協議に臨みましたが、国からは「緊急か所の補修にとどめるべき」との回答でした。まだ再建期間がスタートして間もないため、赤字は再建当初の額と比べ

さほど変わりはありません。「このような時に大幅な改築は認められない」という判断でした。市場小はまず、児童の命にかかわるベランダの手すりを補修。以来、職員の手作業による細かい補修を重ねながら今日に至っています。

その後、旧赤池町は財政再建完了後に準備会を立ち上げ、平成15年8月に校舎建設検討委員会を発足させました。そして平成18年6月、新校舎の建設に着工します。およそ13年越しの願いが現実動き出した瞬間でした。



本年度中の完成をめざして建設が進む新校舎、建設費は約10億7千万円。奥に見えるのが現在の校舎。



市場小学校の太田亮一校長「やっと、という感じ。毎日、建設の様子を観察して目を輝かせている子どもたちと喜びを分かち合っている。新校舎でプロの教師をさらに育成し、子どもたちの能力を伸ばしたい」